

第38回日本てんかん学会

ランチオンセミナー 2

WHEN & WHERE

日時：2004年10月1日（金）
12:00～13:00

場所：グランシップ 中ホール・大地
(静岡コンベンションアーツセンター)

PROGRAM

テーマ：てんかんの神経病理と画像診断

座長：地引 逸亀 先生（金沢医科大学 精神神経科学講座 教授）

講演：1. てんかんの神経病理と受容体 —基礎的知見から—
森本 清 先生（香川大学医学部 精神神経医学講座 助教授）

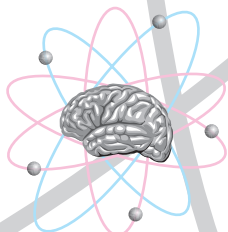
2. てんかんの神経病理と画像診断 —臨床的知見から—
松田 一己 先生（国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター
第二脳神経外科 医長）

SPONSORS

共 催：



第38回日本てんかん学会



JCNN
日本脳神経核医学研究会



日本メジフィジックス
株式会社

「てんかんの神経病理と画像診断」について

PET・SPECTを用いたてんかん焦点検索法には、発作間欠期および発作時の脳の血流や代謝像から焦点を推定する方法の他に、神経伝達物質や受容体の脳内分布の異常から焦点を推定する方法がある。神経伝達機能イメージング法の中でこの焦点推定において最も臨床応用されているのは、中枢性ベンゾジアゼピン受容体（BZR）イメージングである。てんかん焦点領域ではBZR数が減少している事実が報告されており、てんかん脳における抑制系の障害を示す変化と考えられている。PET用BZRイメージング薬剤（¹¹C-flumazenil）の開発によりPET検査による脳内BZR分布の画像化が可能となり、てんかん患者へ応用されている。しかし、¹¹C-flumazenil PETの使用可能な施設の数は限られており、広く普及しているSPECTへの応用が待たれていた。つい最近、SPECT用BZRイメージング製剤（¹²³I-iomazenil）が保険適用され、検査法の簡便な¹²³I-iomazenil SPECTが外科手術を対象とする部分てんかん患者に適用されている。今回は、¹²³I-iomazenil SPECTの基礎から臨床まで、病理所見と対比しながら、エキスパートに講演していただくことになった。

日本脳神経核医学研究会 運営委員
松田博史（埼玉医科大学国際医療センター核医学）

ABOUT JCNN

THEME

日本脳神経核医学研究会について

日本脳神経核医学研究会は、脳核医学に関する基礎および臨床研究の推進とその普及をはかり、それを通じて我が国の学術文化の発展に寄与し、国民の保健と福祉の向上に資すると共に、国際協力につとめることを目的としています。

脳核医学の発展には、放射線科や核医学科において検査を実施する医師や技師に加えて、脳神経外科、神経内科、精神科などで実際の診療に携わる臨床医、装置や医薬品の開発を行う物理学、薬学、化学などの基礎研究者の協力が不可欠です。本研究会は、これらの学際的な領域の医療関係者や研究者を対象に、セミナーや講演会などを開催して、脳核医学の幅広い普及をめざします。また、脳核医学に関する多くの課題について議論する場を設定して、検査法の確立、臨床使用のためのガイドラインの作成、国際的な枠組みの中で情報交換などを行っていきます。

研究会の会員相互の情報交換には、インターネットを活用して幅広く情報を提供していきたいと考えています。本研究会が主催、共催する行事や関連研究会の案内もホームページでご覧いただけます。会員が情報を共有するとともに、外部に向けて発信できる新しいタイプの研究会を指向して活動を行っていききたいと考えています。この趣旨にご賛同いただき、脳核医学の発展のために、是非本研究会にご参加下さい。

詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www2.convention.co.jp/jcnn/>

日本脳神経核医学研究会事務局

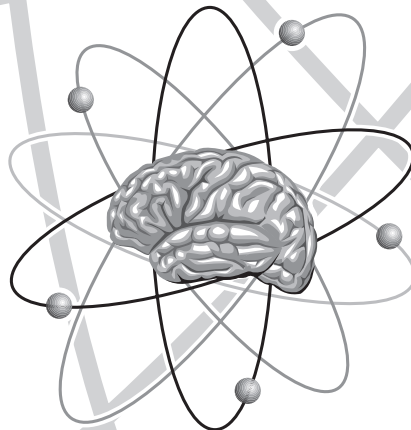
〒100-0013
千代田区霞が関1-4-2
大同生命霞ヶ関ビル18F
日本コンベンションサービス株式会社内

担当：岩田

E-mail : infojcnn@convention.co.jp

Tel : 03-3508-1222

Fax : 03-3508-0820



JCNN